

第2分科会

一億総活躍社会の裏側で！ ～両天秤にかけられた利用者の生活と福祉労働～

【ねらい】

昨今、「一億総活躍社会」が提唱されるなか、待機児童問題の深刻さを浮き彫りにした「保育園落ちた、日本死ね」ブログ問題や介護離職、長時間労働や非正規化といった国民の生活課題はますます多様かつ複雑化してきています。

一方で、こうした生活問題に対応していく社会福祉労働の現場は、2000年前後を中心とする社会福祉基礎構造改革によって保育・高齢者福祉・障害者福祉といった各領域にわたり、従来の自治体や社会福祉法人ばかりでなく、NPO法人や営利企業など多様化し、それに伴い非正規職員の増加や事業所の利益確保による人件費削減、たび重なる介護報酬の引き下げなどにより慢性的な人手不足の状態に陥っています。

こうした生活課題の解決を目指す実践は、社会福祉労働の持つ重要な使命であり、それが社会変革のきっかけともなることから、社会福祉労働者自身の葛藤や矛盾、課題を整理し、社会福祉労働の役割を改めて問うことを目的にしていきます。

【報告】

- * 「これでいいのか！？障害者の人権保障と24時間356日を支える福祉労働者の働き方」
塚本洋平さん（全国福祉保育労働組合東海地方本部めいほく障害部分会）
- * 「お互いの生活を守りあう仕事として」
保永雅行さん（第3矢田学童保育クラブ学童保育指導員）
- * 「悩み多き子育て世代からみる保育現場」
山森藤子さん（全国福祉保育労働組合東海地方本部どんぐり保育園分会）

【助言者】 高木博史さん（岐阜経済大学）

【進行】 賀屋哲雄さん（愛知県学童保育連絡協議会）
薄美穂子さん（全国福祉保育労働組合東海地方本部）